

平成18年度 活動報告



特定非営利活動法人

環境防災総合政策研究機構



1. 東京本部の活動報告

～受託～

- 災害時要援護者の避難支援ガイドラインに沿った先進的取組事例等の現地調査
- インド洋大津波に係わる被害調査等のとりまとめ
- 地球温暖化分野の連携拠点における事務局運営
- 近畿危機管理防災研究会運営

～自主～

- 風水害情報ガイドブック
- H18浜口梧陵絵本化事業 アジア防災教育子供フォーラムへの参加・支援

平成 18 年度 活動報告（東京）

<p>名称</p>	<p>災害時要援護者の避難支援ガイドラインに沿った先進的取組事例等の現地調査（受託：内閣府）</p>
<p>要旨</p>	<p>ガイドラインの手引書作成のために、「災害時要援護者の避難支援における福祉と防災との連携に関する検討会」（内閣府、厚生労働省、消防庁と有識者で構成）の運営、とりまとめ。</p>
<p>分類</p>	<p>環境保全と防災に関する情報発信、講演会・シンポジウムの開催等の普及啓発</p>
<p>内容</p>	<div data-bbox="670 638 1157 1041" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">＜長野県調査の様子 信濃毎日新聞 2006年10月3日＞</p> <p>平成 16 年 7 月の梅雨前線豪雨等を契機に「高齢者等の災害時要援護者に対する避難支援対策」の重要性が緊急課題として認識された。この検討会の成果は、「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」等としてとりまとめられた（平成 17 年 3 月）。</p> <p>平成 18 年度の「災害時要援護者の避難支援における福祉と防災との連携に関する検討会」では、市町村に出向いたヒアリング調査で先進的な事例等の収集、検討を行い、「災害時要援護者対策の進め方について～避難支援ガイドラインのポイントと先進的取組事例～」にまとめ、今後市町村に配付する予定。</p> <p>能登半島地震で、“高齢者マップ” が避難時の安否確認に役立ったとの評価。</p>

平成 18 年度 活動報告（東京）

<p>名称</p>	<p>インド洋大津波に係る被害調査等のとりまとめ（受託：内閣府）</p>
<p>要旨</p>	<p>インド洋大津波の経験を、わが国の津波防災対策へ活用するため、被害想定手法や津波防災対策の課題整理と調査事項を明らかにし、内外の専門家・調査チームが行った有益な調査、さらには被災状況に関する基礎資料等を現地にて収集整理。</p>
<p>分類</p>	<p>環境保全と防災に関する調査・研究・技術開発・政策提言</p>
<p>内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;"> ＜プーケット日本人会訪問＞ ＜チェンナイ市被災地訪問＞ </p> <p>インド洋大津波から日本の津波防災対策に活用すべき事項に、①被害想定、②捜索・救助活動の計画策定、③観光客等への津波防災対策の3項目が抽出、CeMI は、文献資料の収集及び被災地(及び当時の滞在関係者)のヒヤリング・アンケート、現地災害対応担当者へのヒヤリングを、現地 NGO 及び住民組織の対応活動について、試行錯誤をしながら進められたことを反映し、インド・被災地の草の根組織、プーケット日本人会、JICA と連携・協力し、他では得られない貴重な資料を集積。</p>


平成 18 年度 活動報告（東京）

<p>名称</p>	<p>地球温暖化分野の連携拠点における事務局運営（受託：気象庁）</p>
<p>要旨</p>	<p>「地球観測の推進戦略」（総合科学技術会議）を受け、気象庁と環境省が共同で設置した「地球温暖化観測推進の事務局」（つくば国環研内）運営を受託。本年は、専門家による3回の委員会と、関係府省・機関の連絡会議等を開催。資料等の作成、つくば市の事務局作業のサポート、関係府省・機関の間を取り持つ中心的な役割を担う。</p>
<p>分類</p>	<p>一般国民、ボランティア団体、一般企業、ライフライン機関、マスメディア、医療機関、地方自治体、政府等の複合領域分野における環境保全と防災に関する連携調整</p>
<p>内容</p>	<div style="text-align: center;"> <p>地球温暖化分野における連携拠点のイメージ図</p> </div> <p>効率的・効果的な地球観測実施を推進するための、地球温暖化分野の連携拠点事務局運営業務。初年度は、以下の委員会・会議等を実施、CeMIは事務局支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局開催記念講演会の開催（9月） ・ 第1、2、3回専門家・研究者WG会合（9月、1、2月） ・ 第1、2回関係府省・機関連絡会議（10月、2月） ・ 第1、2回観測推進委員会（12月、3月）

平成 18 年度 活動報告（東京）

名称	近畿危機管理防災研究会運営（受託：近畿地方整備局）
要旨	近畿地方における防災・危機管理の関係行政機関、民間団体、研究機関等の連携について、既往の対応事例等をもとに課題を抽出し、効果的な連携のあり方やその実現に向けた方策の研究会を運営。
分類 内容	環境保全と防災に関する情報発信、講演会・シンポジウムの開催等の普及啓発
	
写真 第1回（左）と第3回（右）の研究会風景	
機関の連携に係わる課題を抽出するため、防災関係職員に対するアンケート調査、広域連携体制構築の事例調査、過去の災害における課題・問題点の抽出ととりまとめ、機関連携強化策の検討。	

平成 18 年度 活動報告（東京）

名称	風水害情報ガイドブック（自主）
要旨	昨年提言された一部の防災用語の改善に伴った「風水害情報ガイドブック 第一版」（H18年7月発行）の改定。国土交通省河川局や気象庁の防災情報を中心に掲載（今年3月上旬出版）。
分類	防災機関及び住民への防災用語改善啓発 環境保全と防災に関する書籍等の出版・販売
内容	 <p>改訂版「わかりやすい風水害情報ガイドブック」は、平成18年度に国土交通省河川局及び気象庁が発表した防災用語改善に関する取組みなどを、「風水害情報ガイドブック 第一版」（平成16年7月発行）に反映させたものである。</p> <p>防災機関の働きはもとより、“住民自身が災害から自分や家族を守りかつ地域社会を守ることが重要”の考えのもと、高齢者から子どもまでが理解できるガイドブックの作成に努めた。</p> <p>第1章：わかりやすい風水害用語がなぜ必要か、第2章：情報の見方・読み方・伝え方を簡潔に説明、第3章と第4章：改定された風水害及び法令用語の解説、第5章：日本の主な風水害データ集を掲載、巻末には参考資料。国や都道府県の防災担当者の研究会などで使用。</p>

平成 18 年度 活動報告（東京）

<p>名称</p>	<p>H18 浜口梧陵絵本化事業 アジア防災教育子どもフォーラムへの参加・支援 (自主)</p>	
<p>要旨</p>	<p>浜口梧陵の歴史漫画本作成支援（昨年度）に続き、小学校低学年から高学年を対象に絵本を作成・監修(日・英)。また、浜口梧陵のお膝元、和歌山県、教育庁が進める防災教育への取組を支援するために、和歌山で開かれたアジア防災教育子どもフォーラムに企画段階から参加。</p>	
<p>分類</p>	<p>環境保全と防災に関する地域活動を行う団体への支援 環境保全と防災に関する書籍等の出版・販売</p>	
<p>内容</p>		
<p>自己評価</p>	<p>事業の効果 フォーラムに合わせて絵本の作成を支援した。CeMI は日本語版の監修と英訳版の作成を行い、その後、アジア各国語に翻訳され、アジアの子どもたちへの防災教育に役立てられることになっている。</p> <p>継続性 今年度も和歌山県教育庁により津波防災教材の開発等の取組が継続される予定である。</p> <p>連携度 和歌山県教育庁や ACCU などとの連携が図られた。</p> <p>専門性 津波防災に関する専門的解説及び英文翻訳を行った。</p>	

2. 北海道支部の活動報告


～受託～

- 伊達市防災アドバイザー
- 札幌市防災リーダー育成支援活動
- 樽前山周辺地域における防災啓発活動
- 樽前山火山活動時における初動対応検討会
- 沙流川流域における住民主導型環境・防災活動の支援
- 有珠山地域における火山と共生した「みち」づくりワークショップの開催・運営
- 火山防災サミット2006 企画・運営①
- 火山防災サミット2006 企画・運営②
- 火山防災サミット2006 樽前山サマースクール企画・運営
- 火山防災サミット2006 樽前山フィールドトリップ企画・運営
- 苫小牧市民防災講座
- 国道230号(新ルート)開通イベント企画・運営
- 壮瞥町「新道の駅」観光防災拠点に関わる検討支援活動
- 雌阿寒岳火山噴火対応計画検討会
- 豊平川上流地区における地域防災力向上の支援活動
- 樽前山における普及啓発資料(現地看板)作成支援活動
- 有珠山における普及啓発資料(現地看板)作成支援活動

～自主～

- 日本・ニュージーランド 火山防災フォーラム開催・運営
- 火山防災サミット2006「クッタラ火山の防災と観光」企画支援
- 火山防災サミット2006「復活！はまなす隊」企画・運営
- 火山防災サミット2006「有珠山こどもフォーラム」企画・運営
- 火山防災サミット2006「恵庭キッズ防災キャンプ」企画支援
- 雌阿寒岳2006年3月小規模噴火に関するヒアリング調査
- 有珠山地域における環境・防災活動の推進支援
- 有珠山周辺における環境保全に関する啓発活動
- 火山防災の歴史と人を有珠山から学ぶ本 企画
- 災害情報研究会 企画・運営
- 学校等における火山災害に関する普及啓発活動
- 地域における火山災害に関する普及啓発活動
- 自治体広報紙への防災記事の寄稿
- 地域住民や行政機関職員・教員などを対象とした火山災害に関する実地見学活動

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	伊達市防災アドバイザー（受託：伊達市）
要旨	伊達市役所職員及び伊達市民を対象とした防災支援活動を複数実施。
分類	防災地域行政支援と普及啓発
内容・ 評価	 <p><山頂見学会></p> <p>前年度に引き続き次の3項目の業務を行った。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 立ち入り規制域・有珠山山頂部の見学会ガイド役を担当（9月22日：有珠火山防災協議会参加関係機関、参加者約20名）。2) 伊達市職員研修講座。“自然災害の軽減に向けて：行政の役割を探る”（平成19年3月23日。受講者約30名）。3) 市民向けの防災講座。“自然災害の軽減戦略～避難の仕方を考える。”（平成19年3月23日。受講者約50名）。 <p>・山頂見学会、2つの防災講座、いずれも参加者から活発な質疑。</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	札幌市防災リーダー育成支援活動（受託：石狩川開建）	
要旨	新年度水災モニター育成事業の継続活動として、札幌市白石区の防災リーダーを対象とした研修会の企画運営。豊平川・新川洪水危機管理協議会（札幌市、石狩川開発建設部、札幌管区气象台、札幌土木現業所）と連携。	
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発	
内容・ 評価		
	<図上訓練>	<現地見学会>
<p>札幌市は、洪水ハザードマップ（平成 16 年度：「北・東区版」「白石・厚別区版」、平成 17 年度：「中央・豊平区版」「西・手稲区版」）を作成し8区の全世帯に配布。洪水時に安全な避難行動を促し、マップの周知と理解を深めるための防災リーダー研修会。CeMIは研修プログラムの立案、講義・演習内容の決定と講師の派遣等の支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査により、8割以上の参加者から分かりやすく、参考になったとの回答。 		

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>樽前山周辺地域における防災啓発活動（受託：室蘭開建）</p>	
<p>要旨</p>	<p>樽前山周辺の地域住民の防災社会教育ならびにワークショップ等の実施による地域防災力の向上を図ることを目的。樽前山周辺の防災機関や教育関係者からなる「環境防災教育検討会」での検討、樽前山環境防災副読本（中学生を対象）の作成、地域防災啓発に関する各種出前講座、樽前山を知るフィールドトリップの開催。</p>	
<p>分類</p>	<p>社会教育、防災シンポジウム開催普及啓発、環境保全・防災連携調整</p>	
<p>内容・ 評価</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><ワークショップ></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><フィールドトリップ></p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  <p><樽前山地域防災啓発></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><副読本></p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">市民防災講座やフィールドトリップ等の参加者から高評価。</p>	

平成 18 年度 活動報告（北海道）

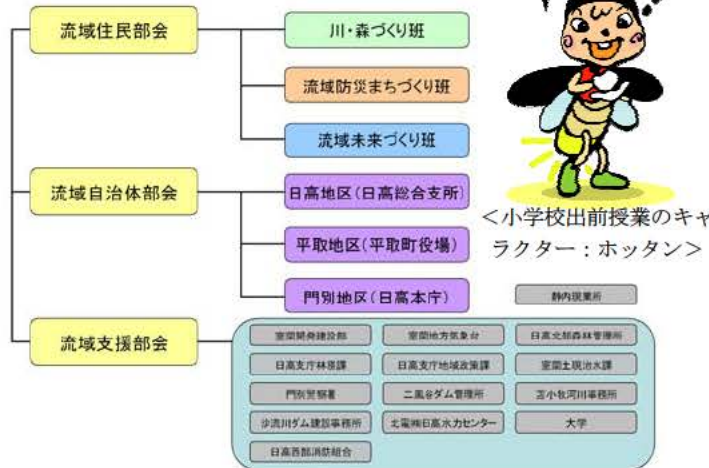
名称	樽前山火山活動時における初動対応検討会（受託：室蘭開建）
要旨	樽前山地域では、噴火初動時の機関連携の具体的な対応（広域避難対策、活動初期の交通物流等の対応）とともに、火山情報のあり方や防災情報の共有などが危急の課題。これらについては、平成17年10月に「樽前山火山活動時における初動対応検討会」（「樽前山火山防災会議協議会」と北海道・国機関が連携）を設置、検討進行中。
分類	社会教育、防災機関連携調整
内容・評価	 <p><火山防災機関連携・噴火初動検討></p> <p>平成18年度は、札幌管区気象台作成の噴火シナリオをもとに「理解の深化」「シナリオに対する防災対応の検討」「防災情報の共有」を主なテーマに検討会を実施し、「検討会」に2部会を設置。</p> <ul style="list-style-type: none">・火山防災情報部会：噴火シナリオの決定や気象台火山情報の内容、火山防災情報の伝達体制、防災マップの活用方針等の検討。・危機管理対応検討部会：シナリオに対応した各機関の防災対応や危機管理行動計画（ガイドライン）のとりまとめ。・具体的な噴火シナリオ（訓練用）の作成と各機関での認識の共有推進。

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	沙流川流域における住民主導型環境・防災活動の支援（受託：室蘭開建）
要旨	流域住民や関係機関と連携した環境・防災ワークショップ等を通じた住民主導による“豊かで安全な流域未来をつくる”ための支援活動。
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発、環境保全・防災機関連携調整

内容・
評価

◆豊かで安全な流域未来をつくる会



<住民部会の出前授業>





<住民による被災状況説明>

<住民部会を関係機関が支援>

平成 18 年 8 月の豪雨災害により、住民部会メンバーに 4 割もの被災者が出たことから、当初の予定（平成 16 年度からの活動内容にもとづいて、流域内外への PR 資料（環境・防災）と流域共同管理の考え方を整理する）を変更し、防災まちづくりに関する検討を先行。この検討から、“沙流川流域で住民が取り組む内容”、“行政機関等が連携して取り組む内容等”が鮮明に、年度末には環境・防災に関する小学校出前授業を住民主体で実施。

- ・参加者の防災意識は非常に高まった。

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>有珠山地域における火山と共生した「みち」づくり ワークショップの開催・運営（受託：胆振支庁（室蘭土現））</p>
<p>要旨</p>	<p>2000 年有珠山噴火の火山現象や交通規制による地域分断が、周辺地域や北海道全域に大きな影響。地域の「みち」を見直し、有珠山の地域への恵み、これにもとづく有力な観光地を考慮。「みち」・「火山との共生」について住民自身が考え、再認識するためのワークショップを開催。</p>
<p>分類</p>	<p>まちづくりの推進、防災普及啓発、防災機関連携調整</p>
<p>内容・ 評価</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><ワークショップ></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><作成した提言書></p> </div> </div> <p>ワークショップメンバー（周辺 4 市町の住民）と、事務局（当法人のほか北海道室蘭土木現業所、地元自治体、室蘭工業大学）とで、計 6 回のワークショップを開催。過去の噴火時における課題を整理、図上訓練による将来噴火時における課題の抽出や火山と共生した「みち」のあり方について議論。住民意見をとりまとめ、有珠山地域における「みち」のあり方についての提言書を作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や地域振興、防災上の「みち」の役割について住民認識が高まる。







平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>火山防災サミット 2006 企画・運営①（受託：室蘭開建）</p>	
<p>要旨</p>	<p>火山災害の軽減を目的に、機関連携や地域の防災意識向上を図るため平成 17 年度から開催。本年度は樽前山・有珠山・クッタラ火山・恵庭岳を有する胆振地方において、火山を知り触れ学びながら 地域の次世代を担う子ども達を主役に種々のプログラムを開催。</p>	
<p>分類</p>	<p>防災普及啓発、社会教育、防災機関連携調整事業</p>	
<p>内容・ 評価</p>	<p>日時：7月31日、8月1日 会場：苫小牧市民会館大ホール</p>	
		
	<p><火山絵画展表彰式></p>	<p><なぜなに火山学></p>
		
	<p><キッズシンポジウム></p>	<p><キッチン火山学></p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>火山防災サミット 2006 企画・運営②（受託：室蘭開建）</p>	
<p>要旨</p>	<p>火山災害の軽減を目的に、機関連携や地域の防災意識向上を図るため平成 17 年度から開催。7 月 31 日、8 月 1 日の本会議では、記念講演やシンポジウムを開催。</p>	
<p>分類</p>	<p>防災普及啓発、社会教育、防災機関連携調整事業</p>	
<p>内容・ 評価</p>	<p>日時：7 月 31 日、8 月 1 日 会場：苫小牧市民会館大ホール</p>	
		
	<p>< 記念講演・岡田弘教授 ></p>	<p>< 報告「火山の恵みを考える」 ></p>
		
	<p>< 報告「過去の教訓に学ぶ」 ></p>	<p>< シンポ「火山との共生そして減災」 ></p>
		
<p>< シンポ「次世代へ伝える」 ></p>	<p>< サミットいぶり宣言 ></p>	
<p>・平成 19 年は有珠山噴火 30 周年記念事業の一環として、平成 21 年は雌阿寒岳周辺地域の開催に継承予定。</p>		

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>火山防災サミット 2006「樽前山サマースクール」企画・運営（受託：室蘭開建）</p>	
<p>要旨</p>	<p>親子で火山を楽しみながら学ぶ目的で、毎年夏休みに開催している。今年度は「火山防災サミット 2006」の一環として開催。</p>	
<p>分類</p>	<p>防災普及啓発、社会教育事業</p>	
<p>内容・ 評価</p>	<p>日時：7月28日 会場：苫小牧市立博物館・錦多峰川2号ダム・白老港</p>	
		
	<p>< 苫小牧市立博物館の見学 ></p>	<p>< 錦多峰川の路頭見学 ></p>
		
	<p>< 砂防施設の見学 ></p>	<p>< 樽前周辺の自然観察 ></p>
		
	<p>< 災害対策危機の見学 ></p>	<p>< 災害対策機器の見学 ></p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	火山防災サミット 2006「樽前山フィールドトリップ」企画・運営（受託：室蘭開建）
要旨	火山に出かけ、火山に触れ、火山噴火で何が起こるのかを学ぶ目的で開催。専門家の案内の下、現在入山禁止になっている山頂火口原側に登山し、火山観測や噴火履歴などを学ぶ。
分類	防災普及啓発、社会教育事業
内容・ 評価	日時：7月30日
	  
	・参加人数 11 名（内苫小牧市民は 3 家族 6 名）

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>苫小牧市民防災講座 企画・運営（受託：室蘭開建）</p>	
<p>要旨</p>	<p>自然災害から地域や自分自身の身を守るため、被災から回避するための知識を学ぶことを目的に苫小牧市で毎年開催。日々の生活の中で防災に向けた主体的な活動を行える市民をより多く育成することを目標とする。</p>	
<p>分類</p>	<p>防災普及啓発、社会教育事業</p>	
<p>内容・ 評価</p>	<p>日時：2月19日～21日 会場：苫小牧市民会館小ホール</p>	
		
	<p><講座：火山災害></p>	<p><講座：図上訓練></p>
		
<p><会場の様子></p>	<p><講座：土砂災害></p>	

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>国道 230 号（新ルート）開通イベント企画・運営（受託：室蘭開建）</p>	
<p>要旨</p>	<p>平成 19 年 3 月、一般国道 230 号の復旧ルート(新ルート)が 7 年ぶりに開通する。この復旧事業は、次の噴火を想定した『災害につよい「まち」づくり』を念頭においた新たな取り組みであることから、230 号の開通に伴い火山災害軽減を念頭においた『みちづくり』とは何かを、地域に再認識していただくことを目的として開催。</p>	
<p>分類</p>	<p>防災普及啓発、社会教育事業</p>	
<p>内容・ 評価</p>	<p>日時：3月26日 会場：洞爺湖町</p>	
		
	<p><バス移動></p>	<p><記念撮影></p>
		
	<p><キッチン火山学1></p>	<p><キッチン火山学2></p>
		
<p><記念講演会 宇井理事></p>	<p><会場の様子></p>	

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	壮瞥町「新道の駅」観光防災拠点に関わる検討支援活動（受託：壮瞥町）
要旨	壮瞥町が平成 18 年度から 19 年度にかけて整備する「新道の駅」について、観光防災情報拠点施設ならびに防災対策室・火山防災ラボなどの機能設計および実施設計。
分類	防災地域活動団体への支援
内容・ 評価	 <p>< 1 階イメージ図 ></p>  <p>< 2 階イメージ図 ></p>  <p>< 完成予想図（外観） ></p> <p>「防災対策室」「火山防災ラボ」については、火山専門家と調整を行った。また、「情報発信機能」については住民ワークショップを行い地域のニーズを掘り起こし、設計に反映。</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>雌阿寒岳火山噴火対応計画検討会（受託：釧路開建）</p>
<p>要旨</p>	<p>雌阿寒岳の噴火は、その規模によっては観光客や地域住民生活、地域経済への影響も甚大となる。2006年3月の小規模噴火を機に、火山活動の平穏期に噴火時防災対策のあり方について連携を深め、取り組みを共有することを目的に設立。</p>
<p>分類</p>	<p>社会教育、防災に関する調査・研究 防災機関連携調整</p>
<p>内容・ 評価</p>	<p>本年度は準備会を含め3回の検討会、2006年3月の小規模噴火時の対応と課題の共有を目的とし機関報告、防災機関と観光事業所のアンケート調査、住民との意見交換会を開催。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>< 検討会 ></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>< 機関報告 ></p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>< 意見交換会（阿寒町） ></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>< 意見交換会（足寄町） ></p> </div> </div> <p>・ 釧路市、釧路開発建設部、釧路地方気象台など行政機関の連携調整を実施。</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	豊平川上流地区における地域防災力向上の支援活動（受託：石狩川開建）	
要旨	地域住民による豊平川流域環境の保全と水・土砂災害の軽減を主眼。関わる環境・森林管理者、河川・ダム管理者、気象官署等の防災・危機管理機関等と地域住民との連携を目的に「豊平川流域環境防災ワーキング（仮称）」を設置。流域環境保全対策の取組み状況、流域災害データの共有、流域環境保全の推進、風水害に対する地域防災力向上のあり方等の検討と、地域住民を対象とした啓発活動。	
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発事業、環境保全・防災機関連携調整	
内容・ 評価		
	＜ワーキング＞	＜中学生を対象とした啓発活動＞
	<p>ワーキング（豊平川流域関係行政機関等を検討メンバー）を 2 回開催。豊平川流域において検討すべき内容等の整理、都市流域における地域コミュニティと環境保全活動、防災活動の課題について議論。中学 3 年生とその保護者を対象とした啓発活動（出前授業や資料提供）（計 8 コマ）。</p>	
	<p>・豊平川流域の機関連携のベースを作成。アンケート調査により啓発授業の前後で防災意識・知識に顕著な差を確認。</p>	

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	有珠山における普及啓発資料（現地看板）作成支援活動（受託：北海道）
要旨	有珠山・洞爺湖温泉市街地の防災（砂防）施設についてわかりやすく解説するパネルの作成支援。日本語と英語の併記。
分類	防災普及啓発
内容・評価	<p style="text-align: center;">1800 × 1000</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">＜看板の版下原稿＞</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	日本・ニュージーランド 火山フォーラム開催・運営（自主）
要旨	島国で火山国であるニュージーランドと日本の火山防災に関わる先端研究者を招き、火山防災に関する活動や研究について市民や行政等に広く周知することを目的としてフォーラムを開催。
分類	社会教育、防災シンポジウム開催・普及啓発
内容・ 評価	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="text-align: center;"><p><レオナード氏による講演></p></div><div style="text-align: center;"><p><参加者からの質問></p></div></div> <p>ニュージーランド GNS 自然災害部門の火山研究者グラハム レオナード氏、北海道大学・岡田弘、丸谷知己両教授、当法人宇井忠英専務理事が講演。当日までの調整やフォーラムの運営、通訳等も当法人のスタッフが担当（参加者 80 名）。</p> <p>広報から開催までの期間が比較的短かったにも関わらず、多くの参加者があった。</p> <p>講演の内容等が非常に有意義であったとの感想を参加者から頂いている。海外の研究者との交流は今後も必要であると考えられる。</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	火山防災サミット 2006「クッタラ火山の防災と観光」企画支援（自主）
要旨	火山防災サミット 2006 で開催した各火山地域におけるイベントの一つ。道内有数の観光地である登別温泉を有するクッタラ火山について、その火山活動を学び、防災と観光を共に考えることを目的として、室蘭工業大学と登別市が主体となって開催。当機構では基調講演講師およびパネルディスカッションに宇井理事が担当。
分類	防災普及啓発、社会教育、防災機関連携調整事業
内容・ 評価	日時：7月25日
	会場：登別グランドホテル「2F ラーチ」
	
	＜パネルディスカッション＞
	
＜会場の様子＞	＜パネルディスカッション＞

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	火山防災サミット 2006「復活！はまなす隊」企画・運営（自主）
要旨	火山防災サミット 2006 で開催した各火山地域におけるこども向けイベントの一つ。2000 年有珠山噴火時に結成された女性警察官の活動部隊“はまなす隊”と当時避難所で交流のあった子どもや住民とが再会。噴火体験の共有と、町内外への噴火災害対応の広域性の認識向上を目的。
分類	防災普及啓発、社会教育、防災機関連携調整事業
内容・ 評価	日時：7月28日
	会場：豊浦町地域交流センターとわにー
	
	＜はまなす隊＞
	
＜当時小学生との再会＞	
	
＜子どもたち＞	
	
＜キッチン火山学＞	
<ul style="list-style-type: none"> ・当企画を機に開催地豊浦町が有珠火山防災会議協議会に加入、4市町において防災協定が締結。 	




平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	火山防災サミット 2006「有珠山こどもフォーラム」企画・運営（自主）
要旨	火山防災サミット 2006 で開催した各火山地域におけるこども向けイベントの一つ。有珠山の山ろくに住む子どもたちが、日頃、有珠山をどう思っているのか、その上で、有珠山とともに暮らしながら地域でどう生きていくか、などを少しでも考えてもらい、地域を守る仕組みやその役割を学ぶことを目的として開催。
分類	防災普及啓発、社会教育、防災機関連携調整事業
内容・ 評価	<p>日時：7月29日 会場：洞爺湖文化会館</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="432 797 898 1137">  </div> <div data-bbox="930 797 1396 1137">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <作文「有珠山とわたしたち」朗読> <表彰状授与> </div>
	<div style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="703 1917 1098 1948" style="text-align: center;"><こどもシンポジウムの様子></p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	火山防災サミット 2006「恵庭キッズ防災キャンプ」企画支援（自主）
要旨	火山防災サミット 2006 で開催した各火山地域におけるこども向けイベントの一つ。地域の子どもたちの防災意識を高め、地域と子どもたち、そして学校と行政が顔の見える関係づくりを図ることを目的に恵庭市が主体となって企画、運営。当機構では宇井理事が、火山や地震についての講座を担当。
分類	防災普及啓発、社会教育、防災機関連携調整事業
内容・ 評価	日時：7月29日、30日
	会場：恵庭市恵み野旭小学校
	
	＜防災講座＞
	
＜キッチン火山学＞	
	
＜消火器の使い方＞	

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>雌阿寒岳 2006 年 3 月小規模噴火に関するヒアリング調査（自主）</p>
<p>要旨</p>	<p>昨年 3 月 21 日雌阿寒岳山頂の北西側斜面で小規模噴火が発生。振幅の大きい火山性微動の発生、水蒸気爆発とともに降灰を確認。地元自治体と関係機関が情報収集や入山規制などの対応に追われた。本調査は、当時の対応と課題を明らかにし今後の取組を検討する際の参考データとするため。</p>
<p>分類</p>	<p>防災の調査・研究・技術開発・政策提言</p>
<p>内容・ 評価</p>	<p>調査は、雌阿寒岳活動時に災害対応にあたる防災機関（雌阿寒岳火山防災会議協議会構成機関）中、特に重要と考えられる下記の 6 機関について調査。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>①釧路市阿寒町行政センター</p> <p>②釧路支庁</p> <p>③足寄町役場</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>④根釧西部森林管理署</p> <p>⑤釧路開発建設部</p> <p>⑥釧路地方气象台</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;">  <p>〈2006.3.21 噴火直後〉</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>〈2006.3.21 ホンマチネシリ噴火の状況〉</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;">  <p>〈2006.3.21 噴火による泥流〉</p> </div> <p>ヒアリング調査から、①情報収集については、・噴火活動状況の把握が困難、・協議会構成機関における情報連携が不十分、②判断・意志決定については、・雌阿寒岳噴火対応計画が必要、・雌阿寒岳の啓発が求められている、③防災対応行動については、・事前の避難計画が重要、・登山者の安全対策としての火山情報の提供と被災回避支援が急がれる、などが明らかになった。</p> <p>・ヒアリング調査に基づき、雌阿寒岳周辺機関連携等を目的とした「雌阿寒岳噴火対応計画検討会」が昨年度設立。</p>



平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	有珠山地域における環境・防災活動の推進支援（自主）
要旨	有珠山周辺地域で推進されている「エコミュージアム構想」は、有珠山噴火の復興策として行われてきました。今年度“エコミュージアム推進協議会”の新発足記念シンポジウムに、当法人の事務局長が講師として講演、さらに4市町長のシンポジウムでコーディネーターとして協力。
分類	社会教育、まちづくり、防災地域活動団体への支援 防災普及啓発
内容・ 評価	 <p><松尾事務局長が講演></p>  <p><シンポジウム会場></p> <p>日時：平成 19 年 2 月 1 日（木）16:00～ 場所：伊達市消防防災センター 話題：エコミュージアム（自然博物館）フォーム ～地域資源を活かした新たな洞爺湖圏づくり～</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

<p>名称</p>	<p>有珠山周辺における環境保全に関する啓発活動（自主）</p>
<p>要旨</p>	<p>2000 年有珠山噴火・泥流被害で校舎移転となった洞爺湖温泉小学校の子どもたちに、「緑の再生」という夢を伝える活動。 学校教育関係者や研究者、地域住民・行政が連携して進めている環境防災教育の一環。</p>
<p>分類</p>	<p>社会教育、まちづくり、環境保全普及啓発</p>
<p>内容・ 評価</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p><種子採取></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><種子の植え付け></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><砂防指定地に植樹></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><砂防指定地に苗木を植樹></p> </div> </div> <p>平成 17 年度から継続している取り組み。本年度は、種子の採取さらには、昨年度から育ててきた苗木を、有珠山・砂防指定地に植樹。</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	火山防災の歴史と人を有珠山から学ぶ本 企画（自主）
要旨	火山国“日本”において、有珠山と人との歴史は火山災害から地域を守るための貴重なバイブルになりえる。有珠山の火山防災の「歴史」「減災まちづくり」「危機管理」に関わった『人物』の視点で記録集（著書）を作成し、火山地域における減災社会のあり方の道標とする。
分類	社会教育、まちづくり、防災普及啓発
内容	執筆予定者による趣旨と内容についての承認・検討。  <企画会議>  <検討状況会議>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	災害情報研究会 企画・運営（自主）	
要旨	防災情報の相互理解・改善ならびにわかりやすく伝えるための方策など、それぞれの立場と情報の伝え方や情報共有のあり方などを研究。	
分類	社会教育、防災調査・研究	
内容	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p><災害情報研究会></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p><開会挨拶></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p><話題提供></p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p><開会挨拶></p> </div> </div> <p>本年度：第七回 災害情報研究会を開催 日時：平成 18 年 6 月 23 日（金）19:30～ 場所：NHK札幌放送局 話題：日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震対策 について 内閣府参事官（地震・火山対策担当） 上総周平</p>	

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	学校等における火山噴火と災害に関する普及啓発活動（自主）
要旨	道南の火山地域の学校で火山噴火と災害に関する出前授業を毎年実施している。平成 18 年度は小中学校の総合学習および理科の科目で計 3 回、また高専及び大学の教養科目を分担する形でそれぞれ 1 回実施した。
分類	学校教育支援
内容・評価	 <p data-bbox="727 1245 1107 1283">〈有珠中学校の野外見学〉</p> <ul data-bbox="400 1294 1442 1525" style="list-style-type: none"> ・5/1：伊達市立有珠中学校：“まちづくり学習 有珠山とともに生きる” ・6/28：室蘭工業大学：“火山災害の軽減にむけて” ・7/12：伊達市有珠中学校：“野外見学：有珠山 2000 年噴火” ・9/15：壮瞥町立壮瞥中学校：“有珠山を知る（野外見学と授業）” ・12/19：苫小牧高専：“樽前山の噴火に備えて” <p data-bbox="392 1536 1445 1619">学校によっては生徒達の授業後の感想レポートを送ってくる。普段の授業で教わらなかったことが学べたという趣旨の感想が多い。</p> <p data-bbox="392 1630 1445 1713">全国共通の教科書では扱われない地域の特性に沿った映像資料や図版を駆使した教材を準備して専門性を生かしている。</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	地域における火山噴火と災害等に関する普及啓発活動（自主）
要旨	火山災害や地震などに関する防災講座を実施。行政機関や地域の自治会・企業事業所を対象として実施。
分類	防災普及啓発事業
内容・ 評価	
	<p data-bbox="662 1149 1173 1187">＜平成医塾苫小牧東病院での講座＞</p> <ul data-bbox="400 1245 1444 1525" style="list-style-type: none"> ・5/30：苫小牧警察署：“樽前山の噴火に備える～火山との共生をめざして～” ・9/10：ジオフェスティバル in Sapporo “北海道の活火山：その噴火履歴を探る” ・9/30：北海道鹿部町本別地区自主防災会：“来るべき地震に備えて” ・12/8：平成医塾苫小牧東病院 “樽前山の噴火に備えて” ・3/23：伊達市市民防災講座 “自然災害の軽減戦略～避難の仕方を考える～” ・3/23：伊達市市民職員研修講座 “自然災害の軽減に向けて：行政の役割を探る” <p data-bbox="391 1581 1276 1666">普段は気がつかない知識を得られたなどの感想が寄せられた。専門性の高い映像資料や図版を提示して講座を実施。</p>

平成 18 年度 活動報告（北海道）

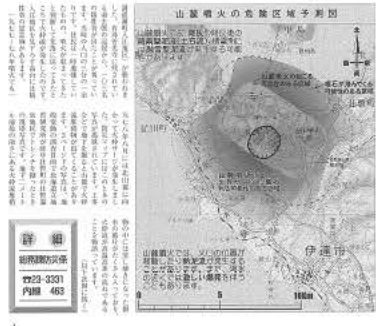
<p>名称</p>	<p>自治体広報誌への防災記事の寄稿（受託：伊達市）</p>
<p>要旨</p>	<p>地方自治体へのアドバイザー業務の一環として、住民に配布される広報誌に防災に関する連載記事の執筆を担当するものである。</p>
<p>分類</p>	<p>社会教育の推進を図る活動</p>
<p>内容</p>	<p>平成 16 年度から伊達市の広報誌“広報だて”に“日頃から災害に備えましょう”を年 2 回掲載しており、今年度分は④土砂災害編、⑤噴火編その 1 であった。</p>

「土砂災害」は、大雨や暴風による土砂の崩壊、土石流、崖崩れ、地盤沈下、地すべり、液状化などによって発生する災害です。発生すると、人命や財産に大きな被害をもたらす恐れがあります。事前に危険箇所を把握し、避難経路を確認しておくことが大切です。



土砂災害の危険箇所（国土地院作成）「土砂災害特別警戒区域」より

「噴火」は、火山から火砕物や溶岩、火山灰などが噴出する現象です。火山灰が降り積もると、視界が低下し、呼吸器を刺激する恐れがあります。また、溶岩や火砕物が降ると、人命や財産に大きな被害をもたらす恐れがあります。事前に危険箇所を把握し、避難経路を確認しておくことが大切です。



山麓噴火の危険区域予測図

日頃から災害に備えましょう

④～土砂災害編～

NPO法人 環境防災総合政策研究機構 専務理事 宇井忠英

大雨や暴風による土砂の崩壊、土石流、崖崩れ、地盤沈下、地すべり、液状化などによって発生する災害です。発生すると、人命や財産に大きな被害をもたらす恐れがあります。事前に危険箇所を把握し、避難経路を確認しておくことが大切です。

土砂災害時のイメージ（日蓮宗毎月1回掲載）「動かなるしるすま」より

こんな前ぶれ現象に注意！

大雨や暴風による土砂の崩壊、土石流、崖崩れ、地盤沈下、地すべり、液状化などによって発生する災害です。発生すると、人命や財産に大きな被害をもたらす恐れがあります。事前に危険箇所を把握し、避難経路を確認しておくことが大切です。

日頃から災害に備えましょう

⑤～噴火編その1～

NPO法人 環境防災総合政策研究機構 専務理事 宇井忠英

火山から火砕物や溶岩、火山灰などが噴出する現象です。火山灰が降り積もると、視界が低下し、呼吸器を刺激する恐れがあります。また、溶岩や火砕物が降ると、人命や財産に大きな被害をもたらす恐れがあります。事前に危険箇所を把握し、避難経路を確認しておくことが大切です。



社務町社務高南地区でのトロンク調査で見つかった火砕物堆積物

平成 18 年度 活動報告（北海道）

名称	地域住民や行政機関職員・教員などを対象とした 火山災害に関する実地見学活動（受託・自主）
要旨	地域住民や行政機関の職員を対象として、火山地域の現場に出かけて火山災害についての理解を深めるための行事を実施している。
分類	社会教育の推進を図る活動
内容	<p>道南の活火山を対象とした行事を従来から実施しており、平成 18 年度は有珠山と樽前山で次の通り行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 4/30：有珠山噴火メモリアル実行委員会主催「2000 年火口めぐりトレッキング」対象：地域住民  <ul style="list-style-type: none">・ 9/17：樽前山環境防災教育検討会山頂火口原見学会 対象：教員・ 9/23：第 4 回有珠山現地勉強会 対象：伊達市民

有珠山の生い立ち学ぶ

宇井・名誉教授が協力 採石場跡を観察

生徒 全校中生 道考える



伊達

総論的学習でまじく
の学習に取り組む伊達市
有珠中学校(中西広満校
長、五十二人の生徒が
一日、有珠地区のフ
ールドワンを美幌。宇
井忠英・北大名誉教授の
ルを組んだ。今回は宇井

講義などを通して有珠山
との共生について考えを
深めた。
平成十五年度以降、生
徒のまじりの参加で地
域理解を自指して同学商
に励んでおり、本年度は
四十五時間のスケジュー
ルを組んだ。今回は宇井

有珠山の生い立ちを
通して身近な地形の
成り立ちを説明する
宇井名誉教授
教授を招き、「有珠山と
ともに生きる」をテーマ
に校舎周辺のフィールド
ワークと講義を受けた。

生徒たちは、校舎近く
にある採石場跡の観察か
ら開始し、有珠、若生南
地区が起伏に富んだ地形
(流れ山地形)となつて
いる様子や、採石業が盛
んだったことを目で確
認。体育館に戻ってから
は、実地体験を振り返り
ながら、地形は約七千年
前に発生した有珠山噴火
での山頂崩壊によるもの
との説明を聞いた。
宇井教授はプロジェクト
ターを使って授業を進め
「岩くず雪崩」は、雪山
で起きる雪崩と同様で、
崩れた山体が海まで流れ
た。アルトリ岬周辺に岩
礫が今もあり、有珠だけ
飛び出した海岸の地形に
なっている」と指摘。海
や丘に多数の岩の露出が
見られる理由を説いた。

2006.05.02 室蘭民報

山の生い立ちを含めて「や観光業も活発になっ
解説される中で「噴火にた」と恩恵についても触
よりの火山灰大地の恵まれられ、生徒たちは身近
た土壌と漁場が生まれてな火山との共生の大切さ
幸がもたらされ、採石業を学んでいた。



採石場跡で宇井さんの説明を聞く有珠中の生徒

2006.05.02 北海道新聞

宇井名誉教授から 有珠山の歴史学ぶ

伊達の中学生 採石場跡も見学

【伊達】有珠中(中西
広満校長)で一日、火山
史を学んだ。
宇井さんは採石場に転
がる溶岩を手に「有珠山
は約七千年前に噴火海に
向かって崩れた。その結
果、海岸は海にせり出し、
有珠地区に丘がたぐさん
できた」と説明。中学生
は雨にもかかわらず、熱
心に聞き入っていた。
その後、体育館に移っ
て講義を行い、宇井さん
は山の崩壊で海の地形が
複雑となり豊かな漁場が
形成されたことや、火山
灰で良質な土壌がつくら
れたことなど「有珠山の
恩恵」について話した。

(佐藤大吾)

2007.02.02 北海道新聞

(第3種郵便物認可)

北



パネル討論に臨む、(左から) 菊谷市長、長崎町長、工藤町長、山中町長

同構想は、二〇〇〇年 えられ、他地域とも差別の有珠山噴火後の復興策 化できる」とエココミュとして〇二年にまとめた。洞爺湖周辺を「火 首長四人は構想推進に山の恵み」「大地の恵み 向けて意見を交換。菊谷と文化」「先人の歴史と 秀吉伊達市長は「長期滯海の恵み」のエリアに 在者を受け入れるために分け、有珠山噴火の災害 も体験型観光の充実が必 要」、長崎良太郎洞爺町 長は「まず型元の人が地 域資源を知ることが大 切」と述べ、工藤国夫豊 浦町長は「地域資源を点 から面にして活用するこ が課題」とした。また、 山中町長は、情報発信や 住民組織の育成、行政と 住民の連携の大切さを 訴えた。

洞爺湖周辺

自然博物館へスクラム

フォーラム 4首長がアイデア

【伊達】洞爺湖周辺を丸ごと「自然博物館」に見立て、自然や遺跡などを活用した地域づくりを目指す「洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想」をテーマにしたフォーラムが一日、市消防・防災センターで開かれた。洞爺西部四市町の首長がパネル討論を行い、構想推進策として、地元の連携強化やボランティアなどの育成などを挙げた。

(小野高秀)

2007.02.02 室蘭民報

室 蘭

エコミュージアム推進協フォーラム



エコミュージアム構想に関する取り組みなどを説明する4首長

同協議会は昨年解散したレイクトピアを継承、工藤 国夫豊浦町長は「健康福 祉施設と海岸整備を通 治体は、カイクラス施設 備、平成十一年には海浜 整備や統一案内板設置な 公園をオープンしてい だに取組んできた。温 る。さらに文楽公園や 慶堂はあるものの統一 遺跡などもあり、今後は な情報発信により、国内 一点を結ぶ取り組みは 外からの訪問者を受け入 れよう」と期待感が高ま っている。

フォーラムは、協議会 の発足と活動方針を、広 く市民や関係機関職員に 見られる博物館を目標し たテーマベースを構築し た。山中町長は「文化ボラン ティアも約四百人おり、官 民室蘭開発建設部長、佐藤 功・胆振支庁長が、火山 歴史を踏まえた地域振 興策への協力を表明。洞 爺湖圏に関するエコミ ュジアム向けの取組ミ ーシブ・NPO法人と火山 学発展のかわり 環境防災研究機構北海道 専務理事が振返った。 パネルディスカッシ ョンでは長崎良太郎洞爺町 長が「砂防壁の中に公 営住宅やこのみ橋といっ た遺構を保存した。本 町には住民協会の連携も 多く、入江・高砂貝塚の 整備を進めている。洞 爺湖村には美しいなまこ や自然体験ハウスがあ り、修学旅行などに活用 していきたい」と前内 で

地域資源活用で連携

4首長 洞爺湖圏の構想確認

伊達

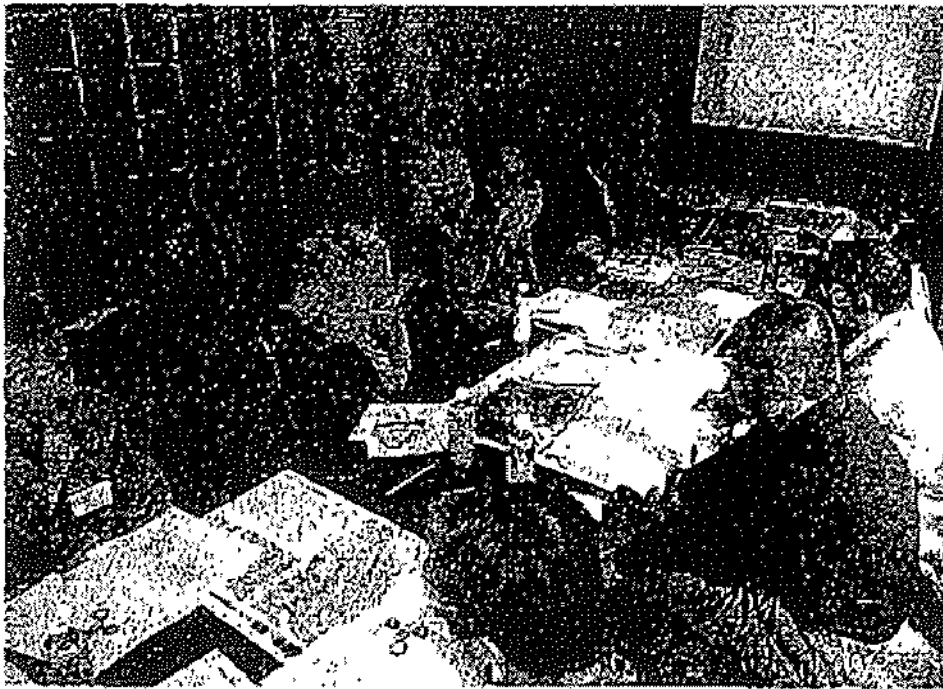
洞爺湖周辺地域エコミュージアム 推進協議会(会長・山中漢壮警町長 が主催するフォーラムが一日、伊達市松ノ枝町の市消防・防 災センターで開かれ、構想する伊達、洞爺湖、豊浦、壮瞥の 四首長がこれまでの施設整備を受けた洞爺湖圏域共済の観光 ・防災・まちづくりの推進を確約した。

通信設備が弱点／携帯使えず不安

検討会が意見交換

足寄の住民ら30人参加

雌阿寒岳噴火対応



【足寄】雌阿寒岳噴火対応計画検討会（座長・新谷融北大名誉教授）と地元関係機関、観光業者らの防災意見交換会が十日、町内茂足寄の野中温泉別館で開かれた。参加者は、昨年三月に小噴火した際の対応の問題点や、今後の課題などについて話し合った。

会合には北大大学院の岡田弘教授やNPO法人環境防災総合政策研究機構（東京）の松尾一郎事務局長、関係各機関の代表者ら約三十人が参加した。雌阿寒岳の防災対策について話し合った意見交換会

表、地元観光業者ら約三十人が参加した。昨年の小噴火では、一部情報提供の遅れや関係機関の連携不足などがあり、地元の宿泊施設には問い合わせも殺到した。

参加者からは「（雌阿寒温泉は）通信設備が弱い。役場と専用回線を設けては」「ホームページでもっと情報を流して」などの意見が出た。

また同温泉・オンネット地区は携帯電話が使えず、緊急時の情報伝達に不安を残すことから、松尾事務局長は「活火山を抱え、これだけの観光地なので携帯電話が使えるよう、各電話会社に強く働きかけなければならぬ」と指摘していた。

（佐藤紀章）



3. 関西支部の活動報告

～自主～

- 学校等における火山・地震に関する普及啓発活動
- 海外火山研修

平成 18 年度 活動報告（関西）

名称	学校等における火山・地震に関する普及啓発活動（自主）	
要旨	関西の小中学校と大学で火山噴火や地震に関する出前授業を継続的に実施。平成 18 年度は小中学校の総合学習および理科の科目で合計 4 回、大学で 1 回。	
分類	社会教育の推進を図る活動、防災に関する普及啓発	
内容	<div data-bbox="598 573 1236 1048" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月 11 日：大阪府茨木市東小学校：“生きている地球：世界の火山噴火と地震” ・ 10 月 25 日：大阪府茨木市西小学校：“生きている地球（1）：世界の様々な火山とその噴火” ・ 11 月 27 日：大阪府茨木市春日小学校：“生きている地球：世界の火山噴火と地震” ・ 11 月 28 日：大阪府茨木市西小学校：“生きている地球（2）：来るべき地震に備えて” ・ 11 月 30 日：関西大学：“西太平洋沿岸地域における大規模火山噴火とそれに伴う災害” <p>・ 普段の授業で教わらなかったことが学べたとの感想が多い。</p>	
評価	継続性	茨木市の小学校については今後も継続して依頼される見込みである。
	連携度	こうした出前授業に呼ばれるかどうかは校長の裁量にかかっている。自治体の防災部局と教育委員会の連携が弱く、組織を通じて防災教育の取り組みを働きかけるのは容易ではない。
	専門性	全国共通の教科書では扱われない地域の特性に沿った映像資料や図版を駆使した教材を準備して専門性を生かしている。

平成 18 年度 活動報告（関西）

名称	海外火山研修（自主）									
要旨	海外の火山教育・火山防災・火山観光の先進地にグループを案内する研修旅行企画（CeMI の発足当初から実施）。ハワイ島のキラウエア火山、米国カスケード火山帯のセントヘレンズ火山、ニュージーランドの火山地帯、それぞれ1週間程度の3コースを準備してグループでの申し込みを募っている。									
分類	社会教育の推進を図る活動、防災に関する普及啓発									
内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="395 678 906 1014">  <p data-bbox="443 1025 858 1059"><ナルホエ火山の噴出物の見学></p> </div> <div data-bbox="930 678 1441 1014">  <p data-bbox="1058 1025 1313 1059"><展示施設の見学></p> </div> </div> <p data-bbox="395 1104 1449 1384">企画4回目として平成19年1月16日から22日まで全国火山系博物館協議会のメンバー5名をニュージーランドコースに案内。予め作成した解説資料に基づいてルアペフ、ナルホエ、タウポ、タラウエラ、オークランドなどの火山地域の遊歩道やトレッキングコースを歩き、展示施設を見学。旅行業者の仲介に依存せず、航空券、宿、レンタカーの手配を参加者とともに行って経費を節減。</p>									
評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td data-bbox="395 1440 587 1585">事業の効果</td> <td data-bbox="587 1440 1449 1585">小人数のグループで連日合宿状態の行程であったため、日本の状況との違いは参加者に十分に理解して貰えたと思われる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1585 587 1731">継続性</td> <td data-bbox="587 1585 1449 1731">事前に準備してコース設定を行い、ホームページへの掲載やチラシの配布など重ねているが期待するほどには実施できない現状である。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1731 587 1821">連携度</td> <td data-bbox="587 1731 1449 1821">今回の行事に限っては毎年集会を行っているグループなので連携度には何ら問題はなかった。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1821 587 1915">専門性</td> <td data-bbox="587 1821 1449 1915">火山専門家としてのこれまでの積み重ねを十分に発揮できる事業である。</td> </tr> </table>		事業の効果	小人数のグループで連日合宿状態の行程であったため、日本の状況との違いは参加者に十分に理解して貰えたと思われる。	継続性	事前に準備してコース設定を行い、ホームページへの掲載やチラシの配布など重ねているが期待するほどには実施できない現状である。	連携度	今回の行事に限っては毎年集会を行っているグループなので連携度には何ら問題はなかった。	専門性	火山専門家としてのこれまでの積み重ねを十分に発揮できる事業である。
事業の効果	小人数のグループで連日合宿状態の行程であったため、日本の状況との違いは参加者に十分に理解して貰えたと思われる。									
継続性	事前に準備してコース設定を行い、ホームページへの掲載やチラシの配布など重ねているが期待するほどには実施できない現状である。									
連携度	今回の行事に限っては毎年集会を行っているグループなので連携度には何ら問題はなかった。									
専門性	火山専門家としてのこれまでの積み重ねを十分に発揮できる事業である。									